

観察の眼 生駒山「ぬかた園地」 ～あじさいと季節の植物～

1

コース : 額田駅 ⇒ 中展望台 ⇒ 双子塚 ⇒ タタラ山 ⇒ ぬかた園地 ⇒ 生駒山頂

実施日 : 2019年6月14日

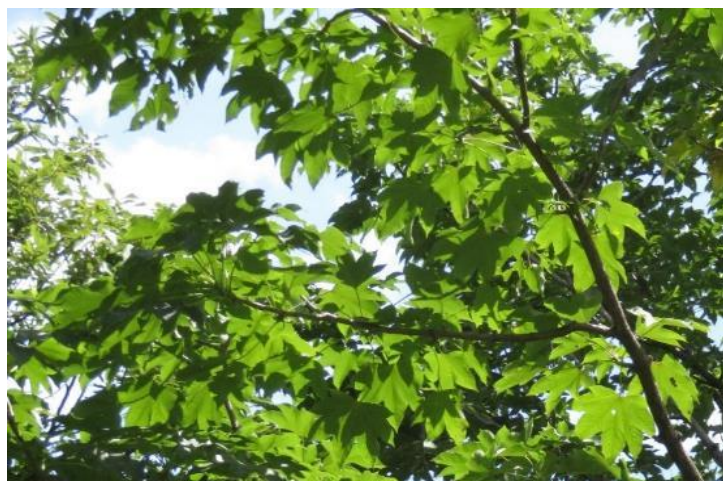
記録 : 3班 石川隆一



「おはよう **ガクアジサイ**くん」さあ観察会へ出発！



ムラサキシキブ シソ科。観察路で多く見られた。



ハリギリ ウギ科。材が刳の様に軽く、幹に棘が有ることによる。



アセビ ツツジ科。他の同種の樹木同様、山腹の処々で見られる。



イヌビワ 勿科。雌雄異株、雄果囊がみられる。



コナスビ サラシ科。果実が茄子の形に似る事から。



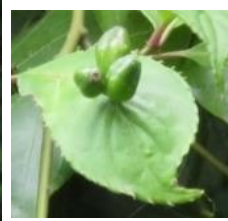
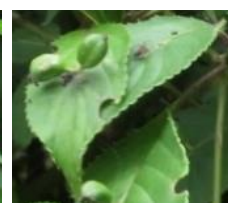
大阪平野を東から望む 写真左に天王寺ハルカス、その右が難波、中央当たりのビル群が梅田が見える。右奥は六甲山系。眼下一帯が東大阪。



ネムノキ マメ科。蕾が見られる。小葉は無柄で、主脈の位置が特徴的。



ハナイカダ ハナカダ科。若い核果。複数果実をつける葉も散見された。



ヤマウコギ ウコギ科。互生、掌状複葉。葉の基部にふつう鋭い棘が有る。葉裏の脈上にも棘が見られる。



サルトリイバラ サトリイバラ科。枝にやや曲がった棘が散生する。葉柄基部に托葉から変化した1対の長い巻きひげがつく。



ナナミノキ モリナギ科。

枝の瘤はナミキメタマツシの虫えい。



ガマズミ レンブクウ科。果実はまだ若い。他で見た木々もほぼ同じ様な状況であった。



マユミ ニシギ科。若い果実。

熟すと4裂し赤い種子を出す。

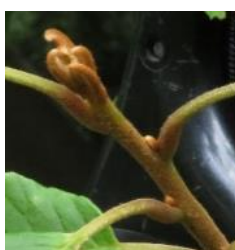


コマユミ ニシギ科。若い果実。

蒴果、1～2個の分果になる。



ツリバナ ニシギ科。若い果実。果実は球形で稜がなく、熟すと5裂し種子を出す。写真：花、果実、樹皮。



アキカラマツ キンポウゲ科。葉は互生、
2～4回の三出複葉。

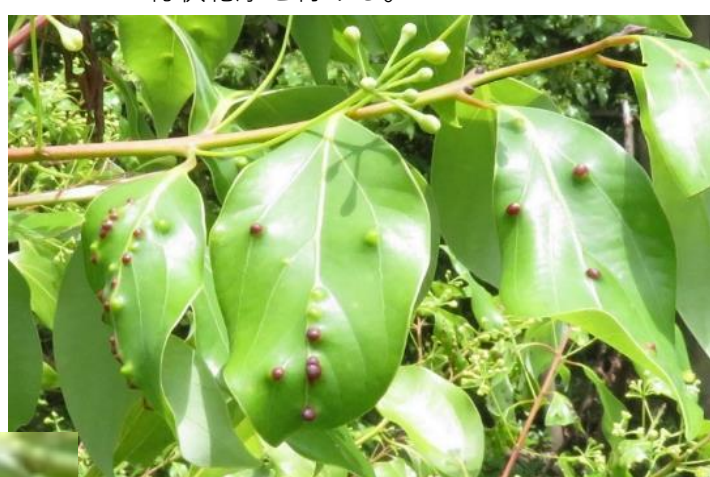


アワブキ アワブキ科。花が終わり子房が膨らみ始めている。既に冬芽が形成されている。裸芽で褐色の毛に覆われている。側芽は小さい。



ハエドクソウ ハエドクソウ科。枝先に穂状花序を付け下から咲く。
根を煎じた汁を紙に浸し、蠅取紙を作ったことからの名。

オカトラノオ サラシナ科。茎先に横に伸びた
総状花序を付ける。



ヤブニッケイ クスノキ科。

葉の脈上にある虫こぶは、ニッケイトガリ
ジラミが、ヤブニッケイの葉脈に沿ってつくった
ニッケイハミヤクイボフシ。



茎下部の葉は深く
羽裂する。

ムラサキニガナ 苣科。茎上部に円錐花序を出し紫色の頭花を多数つける。
茎は直立し、中空で軟質。近くに1.5m程の背丈の個体もあった。



キツネノボタン キボウケ科。果実は
瘦果が集まった集合果。



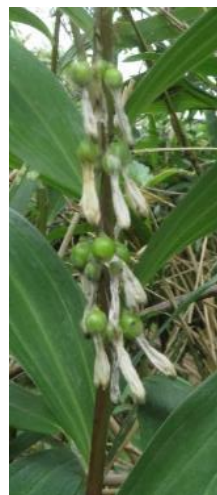
ウラシマソウ 牻牛科。葉は普通1個根生し、11~17個小葉から
なる鳥足状複葉。若い果実が見られた。



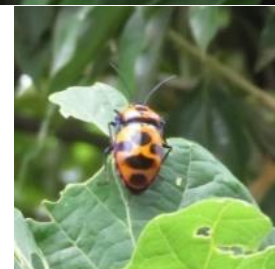
球茎には脇芽が発
達した子球が沢山
つき、子球で栄養
繁殖する。



マムシ 登山道の横、植物観察している
前を這って行った。観察時は注意！



ナルコユリ キジカシ科。茎は丸く稜がない。葉腋に緑白
色の筒状花を1~5個垂れさがってつく。写真中央：
果実がつく。写真右上：先が開いたところ。



オオキンカメモシ キカメシ科。
アマガリなどでみられる。



ミヤコアオイ ヲサマヅク科。葉の表面に雲紋が出やすい。花は暗紫色、萼筒は半球形。双子塚～分岐間の林縁～林内に向けて処々で群生している。



ツルニンジン キョウ科。茎葉は互生で側枝の先に3～4個輪生。



ホタルブクロ キョウ科。茎の上部に白～淡紅紫色の大型の鐘形花を下向きにつける。花柱は3裂。雌性期。



ヒロオビトンボエダジャク
ジャク科。幼虫の食草はツルクメトキ。



ハコネウツギ スイカズラ科。葉は対生。花は枝先や葉腋に2～3個つける。花は初め白色で、次第に紅色に変化する。



ノリウツギ キノコ科。葉は対生、または3輪生する。花は枝先に円錐花序を出す。和紙を漉くときの糊料に用いた。和名はこのことによる。



シロダモ クスノキ科。果実（液果）あり。



孵化直後 同定できず



テングチョウ 珂ハチョウ科。
食草はアザ科のエノキ、クワノ
ハエノキなど。



オカダツナミソウ シソ科



キッコウハグマ 牻牛科。花茎あり。



ネジキ ツツジ科。葉腋からの総状花序に下
向きの壺状花が並ぶ。



シオデ サトリアハコ科。托葉から変化した巻ひげで絡む。果実あり。



ニワトコ レンブクワ科。対生・奇数羽状複葉。



イヌツゲ（左）

モミヅハコ科。本枝の
葉腋から散形
花序を出す。

ミヤコイバラ（右）

バラ科。花柱に毛
がある。





ササユリ リ科。茎先に漏斗状鐘形の花を横向けにつける。成長が遅い。発芽から開花迄約7年ほどかかる。



イワガラミ アジサイ科。ツルアジサイに似るが、装飾花の萼片は1個、葉は三角形などの違いがある。



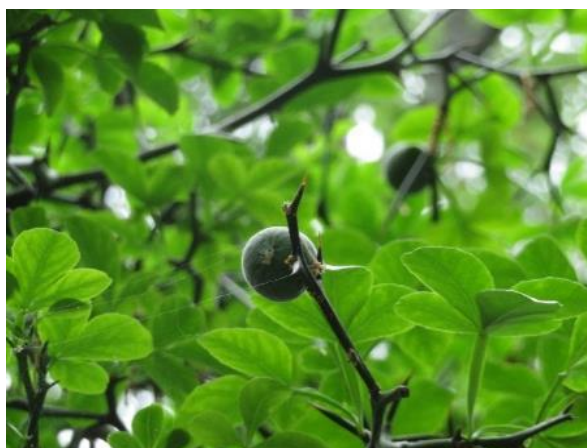
ナガバモミジイチゴ バラ科。



ヤマボウシ ミズキ科。花！あふれる如くに咲き誇る。感動した。



イボタノキ モクセイ科。花は白色で、花序は短い。葉は対生。



カラタチ ミカン科。小型の三出複葉で葉柄に翼あり。



ヤマアジサイ アジサイ科

シチダンカ アジサイ科

ヤマアジサイの変種。六甲山の特産種。
フィリップ・シーボルトの「日本植物誌」
に採録されてたが、その後は実際に見かけ
られることがなかった。しかし、1959年
（昭和34年）に六甲山系内で「再」発見さ
れた。装飾花が八重咲、各がく片が剣状に
尖りきれいに重なって星状に見えるのが特
徴。和名の由来は、萼片が七段に重なる
いうところからきている。



ベニガク アジサイ科。縁に鋸歯を生じ、初めは白色から
段々紅色に染まる。江戸時代から知られる園芸種。